

学習障害(LD)の 理解と対応

学習障害(LD)ってなに？

最初に、文部科学省が出した特別支援教育の中での定義をご紹介します。

「**学習障害とは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すものである。**」

医学的には、読む・書く・計算する・推論することの困難さを取り扱うことになります。

学習障害には、読字に困難がある学習障害(ディスレクシア)、書字表出に困難がある学習障害、算数に困難がある学習障害があり、書字困難・算数困難については今の日本の医療の現状では、正式にはなかなか診断は難しくなっています。

ディスレクシアの子は私どもの調査で2%弱います。しかし「そんなにいるの?」「そんな子あんまり見たことがない」とよく言われるんですが、この子たちは基本賢いので、音読が苦手なことをバレないように上手にカモフラージュするんです。どうしてするのかというと、恥ずかしいからなんです。「お前読めないの?」って言われると、「どうしよう」って思うくらい恥ずかしくて恥ずかしくてたまらないんです。

原因は、音韻処理障害といい、聞いた語音のまとまりを認識して、操作する能力の障害なので、いつまでたっても初めて見たかのように時間がかかるというところがこの子たちの根本的な問題です。

2段階方式による音読指導法

治療の1つとして、2段階方式による音読指導があります。最初は、【**解説指導**】です。表記された文字と読みとの対応の練習をします。まずは1個1個の一字が楽に読めるようになる、という練習をします。日本の単音は101個あるので、さっと読めた文字をA、ちょっと詰まったり言い直した文字をB、全く歯が立たなかった文字をCに分けるんです。そして、Aは読めるので練習しない。BとCだけでも1回集めて何回も読む。読めなかったら大人が読んで言わせるという練習をします。これをお父さんお母さんができればいいなと思ってアプリを開発しました。このアプリを使った解説は1日1回5分。こんな退屈な練習は1日1回5分で十分です。そして、21日間毎日続けられるように、うまく気分を盛り上げてやってください。



音読指導アプリ

【**解説指導**】では、字が出たら自動化して楽に読めることを目的に練習を繰り返します。そこが大体いい感じになってくると一目で把握できる単語の形態、まとまりをパッと見分けるような指導をします。それが2段階めの【**語彙指導**】です。対象のお子さんの学年の、授業でやるちょっと先を、予習的に、その子が知らない単語を教科書から抜き出すんです。先生が読むあるいは指導者が読んであげて、その子に音読をさせて、音のイメージを持ってもらうようにします。ディスレクシアの子には辞書を引かせず、意味はさっと教えてあげて下さい。

そのあと、語彙の理解度を確認するために、ぜひ【例文づくり】に一番時間を割いていただくと思いますね。教科書にあるその子が知らない単語を抜き出して、読んで聞かせ、読ませ、意味を教え、そして例文を作らせる。その例文も1個じゃなくて2個、3個と作らせると非常に記憶の定着がいいと思います。



講師 **小枝 達也**氏 国立成育医療研究センター副院長、こころの診療部 統括部長 医師

プロフィール

鳥取大学医学部脳神経小児科入局。小児神経科、小児科、新生児医療、神経内科、障害児医療の研修を積み、オランダ政府奨学生としてアムステルダムフライ大学小児科へ留学。その後、鳥取大学医学部講師、助教授を経て、鳥取大学教育学部教授に就任。その後、鳥取大学地域学部教授、鳥取大学附属小学校長(併任)、鳥取大学地域学部附属子どもの発達・学習研究センター長(併任)を歴任。平成27年4月より国立研究開発法人国立成育医療研究センターこころの診療部長に就任。鳥取大学名誉教授。平成29年より同センター副院長、平成30年よりこころの診療部統括部長。

読書行動の改善をめざす

リーがある絵本がいいです。

僕ね、漫画は実は1番いい教材だと思います。漢字に読み仮名がふってあり、しかも、2文字熟語が結構出てくるんです。文章の読解力を高めるには、2文字熟語が読めて意味が分かることが必要です。なので、漫画を通して漢字が読めるように、できれば2文字熟語の意味と読みがわかるようにしておくことは、読解力をあげるという意味ですごくゴールに近くなります。

男の子の漫画は、コマがどういう風に進むかが分からないくらい、爆発してて2段抜きだったりズレていたりするので、「どういう順番で読んだらいいかわからない」という子が結構います。そういう時はお父さんに膝の上で、「漫画はこういう順で読んでいくんだよ」とセリフを読んでもらいながら、読み進めて、読み方を教えてもらおうと、一人で読むようになっていきますので、漫画本はおすすめです。



LDと間違えやすい状態

● ADHDの特性のあるお子さん

面倒くさいことをやりたがらないお子さんがいますが、特に繰り返し学習することを嫌うんです。そういう子は特に漢字を書いて覚える、掛け算九九を何度も唱えて覚えることを嫌う傾向があって、そういう傾向を学習障害があるんだって誤解されることもありますけれど、違います。ADHDそのものですから、ADHDの治療をちゃんとやってください。集中力が高まっていく

と、面倒なことでも、ちょっと頑張ろうかっていう気になっていくんです。なので集中力を整えて、ちょっと面倒なことでも頑張ろうよという気にさせてあげることは、とても大事なことだと思います。

● ASDの特性のあるお子さん

「漢字が書けない」と言って外来においでになる方がいます。よくよくその子を診察すると、ほぼ全て書き順がバラバラです。絵を描くように、自

分のその時の思いつきで書くんです。自分流に書きたいという価値観の問題です。漢字を覚えるというのは運動学習なんです。手の運動感覚が覚えるので、書き順がその都度違うと、手が覚えないため、非常に定着が悪いんです。

● その他

理科ができない、理科の学習障害なんてないです。何でもかんでも学習障害と言わないことが大事だと思います。

最後に…。

子どもが大人になるための、発達の変曲点のお話をしたいと思います。

大人になるには3つの変曲点があると思っていて、1つは5歳半なんです。見通しとか段取りなどの「布置の力」が身につくということを意識して関わっていただくと良いと思います。次の変曲点は10歳です。小学校4年生になると、親を参照しなくなるんです。そうになるとお父さんかお

母さんに、「もう大人側の意識を持ち始めたから、今までのような距離感で子育てするとまずいよ」という話をするんです。その距離感は何かというと、自己選択、自己決定を尊重してやってほしいということです。そして、「失敗して良いんだよ、でも起き上がれ」と言っていたくと良いと思います。あと最後、大人の階段を上る14歳。中2を超えてくと、一人で夜を過ごす時間が増えて、

さらに大人になることを自覚して歩き始めるようになると、悪態ついて大変だった子も、ふっと肩の力が抜けたように落ち着くことが結構多いです。

症状を軽くすることばかりに学校も保護者さんも向きがちだけど、その子の年齢相応の“人となり”を育てるという視点をぜひ、持っていていただけたらと思っています。